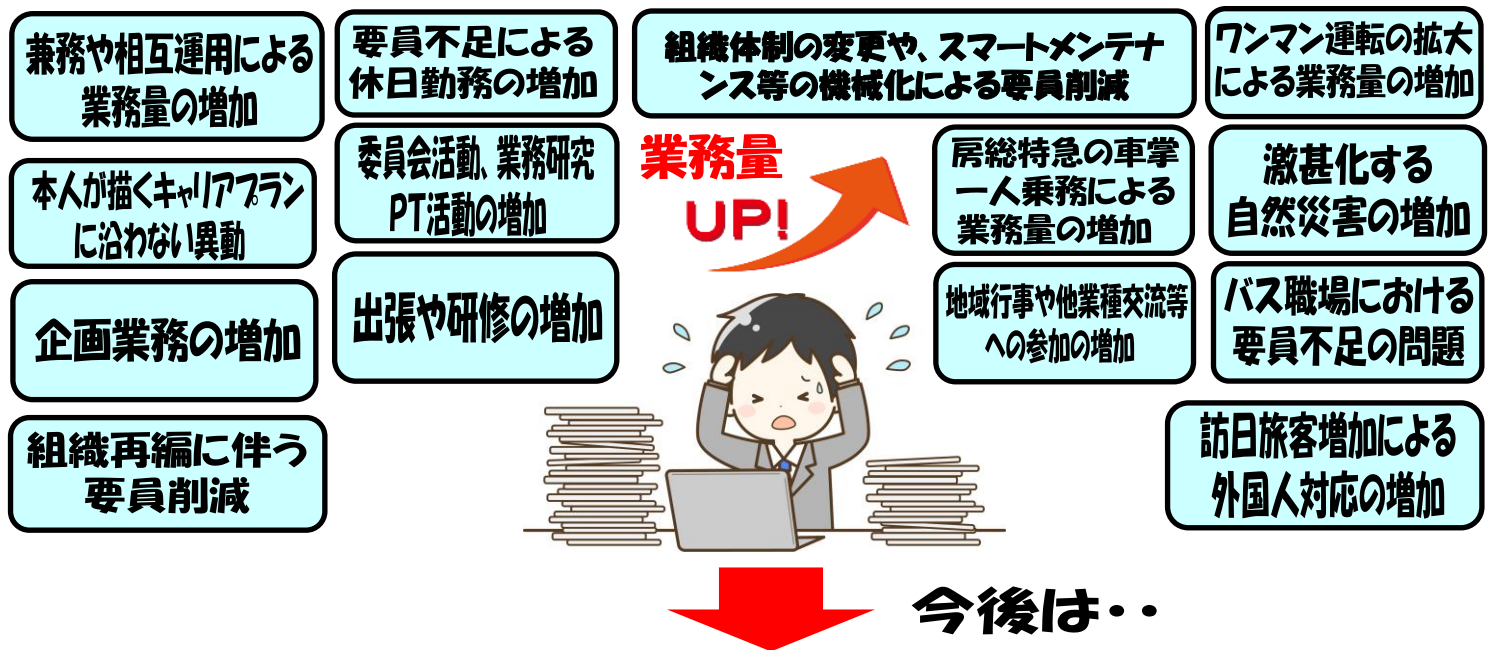




業務量の増加でさらに高まる労働実感！ 会社は、組合員・社員の労働実感に報いるためにも、 年末手当要求満額回答を示すべきでは？

今職場では、融合と連携を始めとした各種施策による業務の多様化や要員不足、インバウンドの増加等によって業務量が増加し、私たちの労働実感には厳しさを増しています。今後もワンマン線区の拡大や組織再編、勇翔2034が目指す究極の融合と連携により、更なる業務量の増加が予想されています。

こうした厳しい労働実感の中で組合員・社員が奮闘してきたからこそ、好調な決算や経営が実現出来たのではないのでしょうか？ 今一度会社は組合員や社員の現場での奮闘に目を向けるべきです。私たちの努力に報いた年末手当要求満額回答の実現に向けて、私たちは声を上げるべきではないのでしょうか？



- ◇ 勇翔2034が目指す究極の融合と連携による更なる多能化
- ◇ 総武緩行線のワンマン運転拡大
- ◇ 組織再編や新たな人事・賃金制度導入
- ◇ 更なる効率化を目指した施策による要員削減



今まで以上の業務量の増加が予想される！

こうしたことからしても、厳しさを増す労働実感に対し、会社は満額回答で応えるべきではないのでしょうか？ 私たちの努力に報いた年末手当にするために、JR東労組に結集し声を上げよう！